



# 碧南ロータリークラブ週報

第2306回例会 平成18年3月15日(水)

- 会長 岡田 起勇 ● 幹事 亀山 裕一 ● SAA 長田 豊治
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90  
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100  
ホームページ:http://www.hekinan-rc.jp/  
E-mail:info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 杉浦昌裕・角谷信二・清澤聡之・岡本明弘

超私の奉仕

2005~2006年度  
国際ロータリーのテーマ



● 斉唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

県立碧南高等学校校長 高橋達参氏



杉浦健次会長エレクト・高橋達参氏

## 会長挨拶

昨日新美託巳様の社葬及び告別式があり、ご焼香させて頂きました。大変立派に執り行われました。謹んでご冥福をお祈りします。

さて、昨日の中日新聞の社説に裁判の時に使用される法廷用語についての意見が載っていました。裁判と聞くと大変難しく、今まで弁護士さん、検事さんにお任せをしていたような気がします。しかし、2009年に新しく始まる裁判員制度に備え、難解な法廷用語を解りやすく言い換える作業が進んでいるそうです。法廷用語はむろんの事、裁判の仕組みや原理原則を一般の人々に良く理解して頂きたいという事です。

新しい制度は起訴から判決に至る刑事裁判で3人の裁判官と市民から選ばれた6人の裁判員で構成されます。裁判員になると自分の判断で無罪・有罪の結論を出さなければなりません。大変責任の重い役割だと思います。また有罪か無罪かはっきりしない時は、無罪とすべきであるという「推定無罪」という大原則もあるそうです。内閣府の世論調査では70%の人が「裁判員になりたくない」と答えています。

裁判員制度は私達の社会常識を裁判に反映させ、市民の見方が裁判に活かされるという新しい制度です。最高裁判所では映画「評議」を制作し、ビデオやDVDにして今春から全国の地方裁判所で貸し出す予定です。



岡田起勇会長



米山記念奨学生カウンセラー感謝状  
長田昌昇君



深世古裕司君

## 幹事報告

- ・他クラブの例会会場変更等のお知らせは別紙幹事報告の通りです。
- ・今年度の緑化植樹事業が完了。先週例会終了後、権田公園にて倉内環境保全委員長及び役員・理事で記念撮影を行いました。  
クラブ週報に掲載されていますのでご覧下さい。会員の皆さんも現地を是非一度ご覧下さい。

・3月25日に春の家族会が開催されますが、以前ご案内致しました様にこの振替休会日は29日です。次週22日は通常例会ですのでお間違いの無い様にお願い致します。



亀山裕一幹事

## 委員会報告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数 78 名 (内出席免除者 14 名) 出席者 62 名	
出席対象者 52 / 64 名	出席率 81.25%
欠席者 16 名 (病欠者 0 名)	前々回修正出席率 96.88%

### 〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 池田 弘孝君** 弊社取締役新美託巳の合同葬儀並びに告別式にご会葬頂ありがとうございました。その節新美孝さんに大変お世話になり有り難うございました。碧南高等学校高橋校長のご来訪を歓迎申し上げます。80周年よろしくお願い申し上げます。
- 青木 稔君** 「そば打ち」にチャレンジしました。たまたまご一緒された森直子さんと材料提供いただいた小笠原良治さんに御礼申し上げます。むずかしく、しかし楽しい体験でした。
- 小笠原良治君** 本日は私の誕生日です。これからは毎年 年を取ります。マイナスです。
- 鈴木 輝彦君** 先日長田昌昇様にお世話になりました。有り難うございました。卓話の講師高橋校長先生を紹介させていただきます。
- 新美 真司君** 昨日の社葬では新美孝様を初め会員の方々には大変お世話になりました。有り難うございました。
- 平岩 辰之君** 先日、長田昌昇様にお世話になりました。有り難うございました。
- 深世古裕治君** 2年3ヶ月の間でしたが、転勤により退会する事となりました。有り難うございました。

## 卓話

### 「創立80周年を迎える碧南高校」

県立碧南高等学校校長 高橋達参氏

現在の県立碧南高等学校は、「愛知県碧南国民学校」として大正15年3月、当時の大浜町、新川町、棚尾町、旭村の三町一ヶ村による組合立の学校として設立が認可されました。大正15年4月、元大浜小学校を借用しての第1回入学式が挙行され、農業部男子17名、商業部男子84名、女子部54名の計155名の入学が許可されました。



高橋達参校長

初代の校長は間瀬勘作氏で、その入学式において「諸君はやがて永遠に継続発展する本校第1回生としての名誉と責任を自覚し自重自愛、未だ見ぬ郷土の後輩の為の良き校風の樹立に努め、麗しき伝統の先達者たるの矜持を希望してやまない。」と述べられ、開校に当たっての大きな期待を寄せられました。

時の県知事山脇春樹氏も、国民学校開校の目的が、小学校の教科を終え職業に就く人に対して

職業に必要な実際の智識技能の修練と、国民生活に必要な道德教育、公民教育を目的としていること、そして将来碧南の地が市制を施き自治を目指す為の拍車となることを期待する旨の訓示を述べられている。その期待に応え、22年後の昭和23年に市制を施きました。

開校の翌年、現在地に新校舎2棟と附属棟が、昭和3年には新たな校舎、雨天体操場等が出来るなど整備が進みました。この雨天体操場が現在残っている武道場です。武道場については平成15年頃から、地震に耐えられないであろうため取り壊しの可能性があることが、県教育委員会から聞こえてきました。三河地震や、伊勢湾台風にも耐え抜き、しかも碧南市が誕生したときには庁舎完成までの1年足らずの間、仮の市庁舎として使用してきたことなど、同窓会をはじめとする多くの方々から存続の要望がありました。教育委員会もこれに応じてくれた形で凡そ5千万円をかけて耐震工事をしてくれました。

大正15年4月に碧南国民学校として誕生しましたが、昭和12年4月に愛知県碧南商業学校、同19年には愛知県碧南工業学校と名称を変え、その時代にあった教育がなされてきました。この後昭和22年4月に併設中学校が設置されましたが、新たな教育制度が始まった昭和23年4月に現在の「愛知県立碧南高等学校」と改称されました。

昭和43年高浜分校が独立、同48年工業科が全日制、定時制ともに分離独立し、現在の「愛知県立碧南工業高等学校」となりました。

昭和23年「愛知県立碧南高等学校」となった年に入学した第1回生から今年度卒業した第58回生までで、23,870人の卒業生、国民学校時代から数えると26,160人の卒業生を世に送り出したこととなります。

今年の11月2日に学校創立80周年の記念式典を行います。これまでの歴史を振り返るとともに、新たな碧南高等学校の将来を踏み出したいと計画しております。この式典では、生徒たちを前面に出し、生徒たちを見ていただけるよう考えております。その意味もあって、過日この創立記念式のためのテーマを生徒から募集いたしました。大勢の生徒たちが応募してくれましたが、その中から2年生の女子生徒の作品を優秀作品として選びました。「80年 今啓かれる 新たな歴史」という作品です。ひらかれるという啓の文字は、本校の校訓が「啓」で、一ひらく一 という意味を持っており自らの将来を自らが切り開いていく、ということです。

現在記念式典に向けて準備を進めておりますが、この場をお借りして、各方面の方々からいろいろな意味での協力をお願い申し上げたく存じている次第です。

少々時間が余りましたので、これまで私の感じてきたことをお話させていただきたいと存じます。

現在の子どもたちは、親から色々なことを教えられていないのではないかと感じるのです。戦中・戦後の混乱、物のない時代に育った人たちが親になったとき、丁度日本の経済が大きく成長し、職業に就く女性も多くなり物質的に豊になってきました。親たちは自分が子どもの頃ひもじい思いをしたことや、欲しいものが手に入らず辛い思いをしたことを、自分の子どもにさせないよう、欲しがると大抵の物を買って与えてしまったのではないのでしょうか。勿論すべての家庭で、どの親御さんもではありません。私が強く感じたのは、落とし物をしたり、忘れ物をしても探そうとしない子ども達が目立ってきたことです。次がまた買って貰えたりしたようです。欲しい物が欲しい時に手に入れば大人しくしますから、親は、躰もできていくと錯覚してしまっています。躰けられていない子どもが次の親になっていく。今子どもたちは教えられないまま成長していると感じています。

学校の役割と、家庭の役割をきちんと果たさなければならぬと思っています。学校での教育力も低下しています。不祥事を起こす教員も多く真剣に取り組まなければならない問題です。家庭

では父性の復活、父親の存在を明確にすべきであろうと思っています。昨今は、何をやっても男は表に出てきません。女性が必ず出てきます。

また、学校の教育に対して、地域や家庭が苦情をいってきます。(いくつかの苦情例を紹介、それぞれへの感想や考えはお聞きいただく皆さんにお任せ)

最後に、「大検」に変わる「高等学校卒業程度認定試験」を紹介します。

「大検」は、高校中退者を対象として、大学受験をしたい人のための制度でしたが、新しい制度では高校在籍中であっても受験ができる制度です。碧南高校の定時制生徒が、昨年受験し受かりました。その生徒は学校をやめてしまいました。そんな制度改革も進んでいることを紹介して本日のお話を終りとさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

**次回例会案内 平成18年 3月29日 (水)**

**春の家族会のため 3月25日 (土) 御園座**